

町田市特別支援教育ハンドブック

学級担任・教科担任向け版

(案)

全ての児童・生徒にとって
分かりやすい授業の実践

2024年3月

町田市教育委員会

目 次

I 今、求められる特別支援教育

- 1 町田市の特別支援教育
- 2 通常の学級における特別支援教育

II 子どもを理解するアセスメント

- 1 アセスメントの内容
- 2 子どもの行動の要因になっていること
- 3 3つの発達障がい
- 4 知能検査・発達検査

III 子どもたちが授業で感じていること

- 1 授業についてのアンケート実施
- 2 アンケートの結果から授業につなげる

IV 誰にとってもわかりやすい授業づくり【集団指導】

- 1 学習環境・生活環境を整える
- 2 学習にひきつける
- 3 価値ある関わり合いをつくる
- 4 集団の中で個に配慮する

V こんなときどうする【個別指導】

〈授業編〉

- ケース1 読むことが苦手な子ども
- ケース2 書くことが苦手な子ども
- ケース3 集中が続かない子ども
- ケース4 感情のコントロールが苦手な子ども
-

VI 学級担任が行う望ましい連携

学級担任・教科担任の先生方へ

令和4年度の文部科学省の調査で(※)、通常の学級にいる学習上・生活上で特別な支援を必要とする児童・生徒の割合は、8.8%という数値が出ました。

30人学級でいうと2～3名という人数になりますが、学級担任・教科担任の先生方は、実際にはもう少し多いという実感をもっているのではないのでしょうか。

また、この8.8%のうち、通級による指導を受けている児童・生徒の割合は1割程度です。少人数や個別の時間による指導が必要な現状がありながらも、校内委員会の効果的な運用や、保護者との連携などの課題が、進まない要因になっています。

通常の学級に様々な特性がある児童・生徒が在籍する中で、どのように授業を展開すればいいのか・・・、先生方からの「ヘルプ」の声はますます高くなっています。

この現状を受けて、教育センターでは「学級担任・教科担任向け」のハンドブックを作成しました。このハンドブックには、先生方が日々の授業をつくっていく上で、ヒントになる環境設定や指導方法を載せています。2022年4月に全教員に配布した「町田市特別支援教育ハンドブック」と併せて、知識・理解を進め、授業改善に役立ててください。

すべての児童・生徒にとって、学ぶことが楽しいものになることを願っています。

—文章上の表記について—

□町田市では、「ひと」に関して使用する場合は、「障害」を「障がい」と表記しています。

ただし、法令等、医学会マニュアル、施設・団体等の固有名詞については変更しません。

□次ページ以降、学級担任という言葉には教科担任も含まれます。

□児童・生徒という言葉は、文章表現の工夫上、「子ども」という言葉を使っている箇所があります。